災害救助犬目指す

雑種で東北初 物覚えも良く

審査会「捜索」トップ 飼い主「大物になって」

雑種の嘱託警察犬「大ちゃん」（雄、1歳11カ月）が災害救助犬を目指して訓練を続けている。大ちゃんは「予定外の妊娠」で生まれたことから青森市の動物愛護センターに預けられたが、青森市の介護士、三上恵子さん(55)に引き取られ、6月の嘱託警察犬審査会では4部門のうち「捜索」部門でトップ合格。これまで2件の事件事故の捜索に出動した。雑種が警察犬になるのは東北初で全国的にも珍しいという。三上さんは「大ちゃんが誰かの役に立ってくれれば」と話している。【石灘早紀】

嘱託警察犬「大ちゃん」

県警によると、今年7月から1年間の県内の嘱託警察犬は38頭。今年度は9月末現在で169件の事件や捜索に出動した。一方、同センターによると、昨年度に同センターに預けられた犬875頭のうち、ほぼ半数の430が殺処分された。

同センターで犬の洗浄ボランティアをしていた三上さんが、大ちゃんと出会ったのは昨春。元の飼い主から預けられていた大ちゃんをシャンプーした時だ。第一印象は「へちゃむくれ」だったが、なぜか気になり、引き取った。手のひらに乗るくらい小さかった子犬に「大物になってほしい」との願いを込め「大」と名付けた。

好奇心旺盛な大ちゃん。帰宅すると生米が散乱した真っ白な床に迎えられることもあった。「最初は何もできなかった」が、「座れ」から一つ一つ教えた。「できなくて当たり前。できたらすごく喜ぶ」という三上さんを見て、大ちゃんもどんどん教えを吸収した。「人の役に立ちたい」とその後、警察犬の訓練を始めた。

大ちゃんの訓練に携わったNPO法人「北東北捜索犬チーム」（青森市）の岩本良二理事長は、「雑種だが、大ちゃんは賢くて物覚えが良い」と話す。前週に教えたことは、翌週にはできるようになっていたという。

大ちゃんと三上さんは今月15日から2日間、群馬県みなかみ町で行われた災害救助犬の認定試験に参加。大ちゃんにとって初めての大きな試験だった。みぞれが降る中、周りは大型犬ばかり。慣れない環境に大ちゃんは緊張している様子もあったという。合格には至らなかったものの、倒壊家屋を想定した倉庫の中で10分間で3人を見つけ出す試験では、1人を発見したという。三上さんは「大ちゃんにとって良い経験になった。訓練を続けていきたい」。大ちゃんと三上さんの挑戦は続く。

行方不明者のにおいをたどる実演をする「大号」＝青森市の県動物愛護センターで